

(当日参加者七名・欠席投句二名)

- 一、うねうねとバベルの曝書はじめけり
- 二、終末の冬の浜辺に書を埋めて
- 三、笞杖徒流死えらばれし傷ネクタリン
ちじょうずるし
- 四、鹿の仔と付喪神の仔声を上げ
- 五、あの人に脈がある春あの日から
- 六、レンタル炎帝ふたり乗りだつてできるよ
- 七、大人にはなれない種族の案山子かな
- 八、月面や地球を祀る大鳥居
- 九、空蟬や誰も来ぬまま千回忌
- 十、天狼で便所の神を拝む人
- 十一、友達だから心配だつて仕組アキアカネ
- 十二、もういつそ交せてもらおか浮かれ猫
- 十三、じゆうけんきゆうぞんびはれもねーどによわい
- 十四、タキオンが豊富らしいぜ茄子かじる
- 十五、運動会とくとくと脳飲み干して
- 十六、夏富士やシックス。バックが解禁です
- 十七、メーカー！我はこの世の人ならず
- 十八、また君は雷となり落ちてこい
- 十九、秋の夜を声あどけなくチューバツカ
- 二十、鮭面の歩きたる船影法師
- 二十一、春雷君の君の君のもの
- 二十二、渋谷発心臓行きの秋の風
- 二十三、入社日に異世界保険入らされ
- 二十四、アバターもえくぼも僕らぞ初節句
- 二十五、倍速で見るぞ六十億年分
- 二十六、一千度 湯ざめ注意 彗星の湯
ほし
- 二十七、月円か まじ のの字のの字のゆきどまり
- 二十八、おとうさんがいっぱいになり蜆汁
しじみじゆ